



ことぶきだい

公民館報

優しく思いやり 明るく楽しい町 寿台

平成27年3月1日現在の寿台
 総世帯数 1,524世帯
 総人口 3,311人
 男 1,588人
 女 1,723人

松本市寿台公民館
 〒399-0021
 松本市寿豊丘649-1
 TEL. (0263)58-6561
 FAX. (0263)86-7964

四丁目青年会発足

会長 伴場 憲嗣

春は三寒四温と申しますが、思わぬ寒さに驚く日もあるこのごろ、皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。



同年代が集い、語り、未来に向かって立ち上がりました。

居酒屋「よりましよ」

常連客 岸田 浩和(四丁目)

私たちが生活する寿台。その中心に位置するふれあいセンターに、月にたった一度だけ開店する、ちよっと風変わりな居酒屋「よりましよ」がオープンしました。

この寿台も少子高齢化の影響による人口減少や、次世代の若者の地元離れ、また、最近はお近所付き合いも少なくなっ



市民体育大会等に出場されている選手の方々も練習を終えてから駆けつけてくれました。

民館長を始め、ご尽力をいただいている方々に感謝致します。

最近ちよっと引きこもりな寿台の皆さん！好きな飲み物を持ち寄って、さあさあ「よりましよ」そこには「あったかいんだからあー」が待っています。

防災力向上は絆から

昨年は、2月の大雪から始まり、7月に木曾の土砂災害、9月には御嶽山の噴火、11月の県北部地震などが県内でも起こり、改めて災害の恐ろしさや防災の大切さを考えさせられる1年でした。

寿台公民館では、寿台防災協議会との共催で防災講座を今年度も4回実施し、災害時に必要な知識や、普段から家庭でできる防災対策などを共に学習しました。

特に松本市では来年度、避難所ごとに避難所運営委員会を設置し、各避難所に適した避難所運営マニュアルを作成する予定であるから、寿台体育館を避難所と想定した避難所運営ゲーム(HUG)を2回行いました。

HUGは、避難されてくる方々を体育館のどのスペースに入室していただくのか？授乳スペースはどこに設けるのか？などの



防災指導員の玉野井氏の指導のもと、4班に分かれてHUGを行いました。



地区の防災訓練では、日赤奉仕団による炊き出しのすいとんを、わけあいました。

体育館内のスペースや、敷地を使った仮設トイレなどの配置。また、避難者が急に発熱を起した場合の対応など、避難所で起こり得る様々な出来事に対してどう対応していくかを模擬体験し、知恵を出しあうゲームです。

今回、参加者から様々な知恵が出されマニュアル作成のための良い学習機会となりました。また、毎年実施されている地区全体での防災訓練にも活かされることと思えます。

今年に入っても、2月15日には松本市でも震度2の地震が発生し、寿台地区では震度以上の、下から突き上げられるような振動を感じました。災害はいつ起こるのか分かりません。防災講座を通して、参加者同士が考え、話し合い、絆を深める事が地域の防災力向上に繋がると思えます。平成27年度も、多くの皆さんが講座に参加されるのをお待ちしております。

寿台公民館

松本市公民館活動 推進功労者表彰

2月15日(日)にMウイングで開催された第30回松本市公民館研究会において、公民館活動推進功労者の表彰式が行われ、寿台からはお二人が表彰されました。



安達隆洋
さん(四丁目)

成17年度に寿台公民館長、平成14年度から公民館委員を複数年に渡り歴任され、通算9年間に渡り公民館活動の推進にご尽力されました。特に図書視聴覚委員として、クリスマスおはなし会スベシヤルでは、サンタクロース姿で登場し、子どもたちにプレゼントを渡す姿が印象的でした。



吉村幸代
さん(九丁目)は、平成20年度から6年間に渡って、寿台公民館長として各種公民館講座による学習から、地域づくりの活動実績に

つなげられました。特に、和太鼓講座から寿台一番星を、和太鼓講座から寿台太鼓連を生み出し、寿台の活性化に大いに活躍されました。

内川 京子(二丁目)
町内公民館長になって早1年が過ぎようとしています。文化祭の出店では、役員の方と協力して、色んな形のバルーンアートを作り、たくさんの人たちに喜んでもらったのが印象に残っています。また、他町会の活動などが分り大変勉強になりました。

2回程、町会でお茶会を実施でき、皆さんに好評いただいたので、今後も続けたいと思います。

編集後記

館報編集委員長
東郷 麻由美(五丁目)

今年も寿台のみなさまに楽しんで読んで頂けるような、充実した情報をお届けする事ができたでしょうか？この1年は、中学生たちが全ての行事に参加、協力してくれ、次世代を担う子どもたちの力強さを肌で感じました。それは、寿台のためにと頑張ってきた、大人の背中を見て育ってきたからでしょうか。子どもからお年寄りまでが手を取りあって、寿台を支えているんだと実感する事ができた年でした。3年間ありがとうございました。

犬飼 俱子(四丁目)

町内公民館長として、多くの経験を見せて頂きました。館報の編集に携わり、町内の方々に原稿を依頼に何うと心よく受けていただき、嬉しく思いました。また、町会の皆さんとスポーツを楽しんだり「四丁目かわら版」と称して、行事のお知らせ、結果の発表等の記事を年3回発行することができ、とても充実した1年でした。

残す1年、質の向上に励みたいと思います。

館報全市版編集委員
戸田 道雄(二丁目)

他町会同様、二丁目も高齢化が進んでいます。そんな中、昨年は町会ボラティア部が発足し、身体の不自由なご家庭の雪かきや公園の整備などを自発的に担っています。またこの度、自分で運ぶことが困難なお宅の資源物回収を、高齢者クラブ「平成寿会」が買っ取らされました。町内公民館も頑張らねばと思いつつも、あつという間に過ぎてしまった1年でした。

巢山 良子(八丁目)

町内公民館行事として、三世交代の節分会を皆さんの協力を得て行うことができました。町会長の指揮のもと、未来っ子たちの合唱に一同大拍手。また、集中力を要する、豆つまみの遊びに子どもたちも大はしゃぎ、その後は一斉に豆まき。

記念撮影後、みんなで恵方巻を味わう中、早くも散会の時を迎えました。子どもたちに何か一つでも思い出を残せれば幸せです。

大崎 恵(三丁目)

7月に行われた三丁目の交流会は私にとって大きな行事の一つでした。参加して下さる方が楽しい時間を過ごせるよう、考えました。交流会を終え、支えてくださった部員さん、協力してくださった方、私はみなさんに助けられました。

1年間を通して大変なこともありましたが、今までにない経験をさせて頂き、人と関わる楽しさ、大切さを改めて感じる事ができました。

中島 一郎(東町会)

「町内公民館長になってしまったぞ、さあ困ったぞ。」「何とかなるか？」この未知の世界に戸惑いの日々が始まりました。「地区公民館」と「町内公民館」の違いは？公民館活動って何？町会内の位置づけは？公民館活動の幅の広さ・深さ・難しさに自問自答。結果、ひとつひとつの積み重ねの連続であり、一人ではできないものが、何人かが集まればできること。人との繋がり、関わり合いにより広がっていく視野を実感。大変勉強になった1年間が終わるうとしていきます。

早川 典子(九丁目)

我が才気は衰えていく一方で、館報編集委員としての業務は、周りの方々に助けて頂きながら無事やり遂げる事ができました。感謝の気持ちでいっぱいです。1年間ありがとうございました。

寿60の思い出 第四章

町会の有名人

一丁目 内川 京子

平成9年10月の大阪国体に、長野県代表選手として、アーチェリー競技に出場した藤原町会長。

競技会場では、皇太子殿下・雅子妃殿下から、励ましの言葉と共に、両殿下より握手をして頂いたそう、「今でもこの感激を生涯の糧とし、逆境にあっても力が湧いてきます。」と語る町会長の目は輝いていました。

愛される公園の第一歩

九丁目 早川 典子

町会には細長い緑地帯(公園225m)があります。常に美しく又、利用される公園に変えていきたいと思っています。そこで、この度、公園美化隊を立ち上げました。まずは公園の草刈、花壇の管理、フェンス、遊具の管理と修理を行い、防災訓練、夏休み子どもラジオ体操が気持ちよくできました。これから松本市と連携をし、愛される公園(春の夜桜、冬のイルミネーションなど)となるよう町会で取り組んでいきます。